



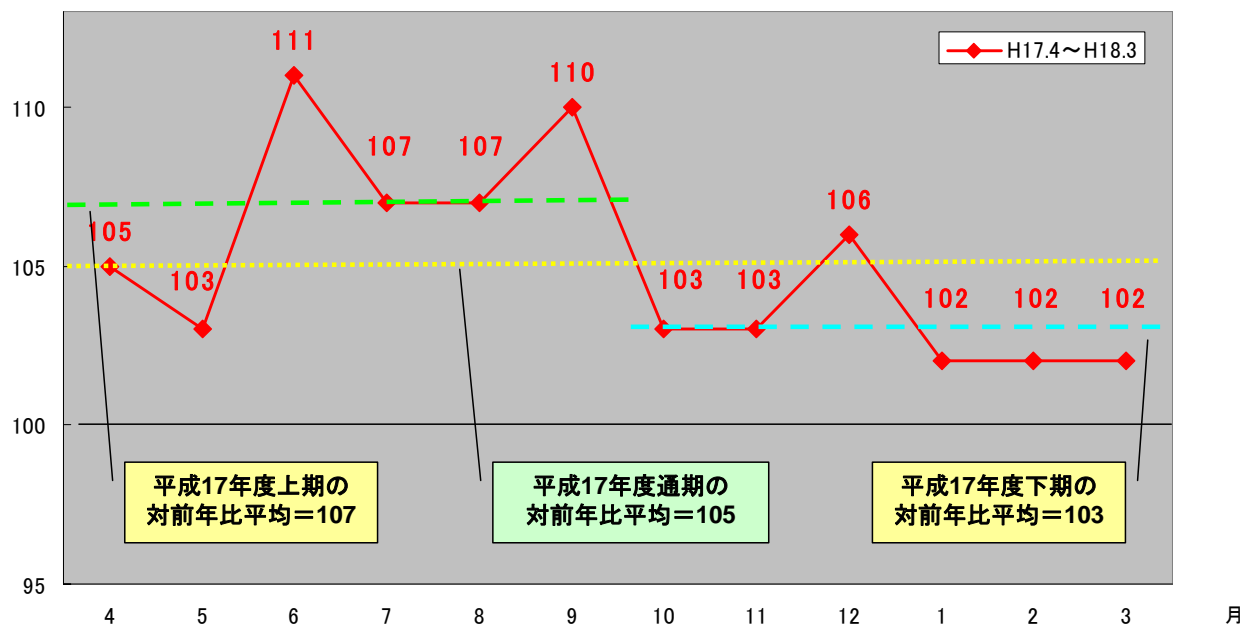
東海旅客鉄道株式会社 平成17年度期末決算補足資料

平成17年度における東海道新幹線のご利用状況

1

◆万博終了後も、東海道新幹線の輸送量は好調に推移

対前年比



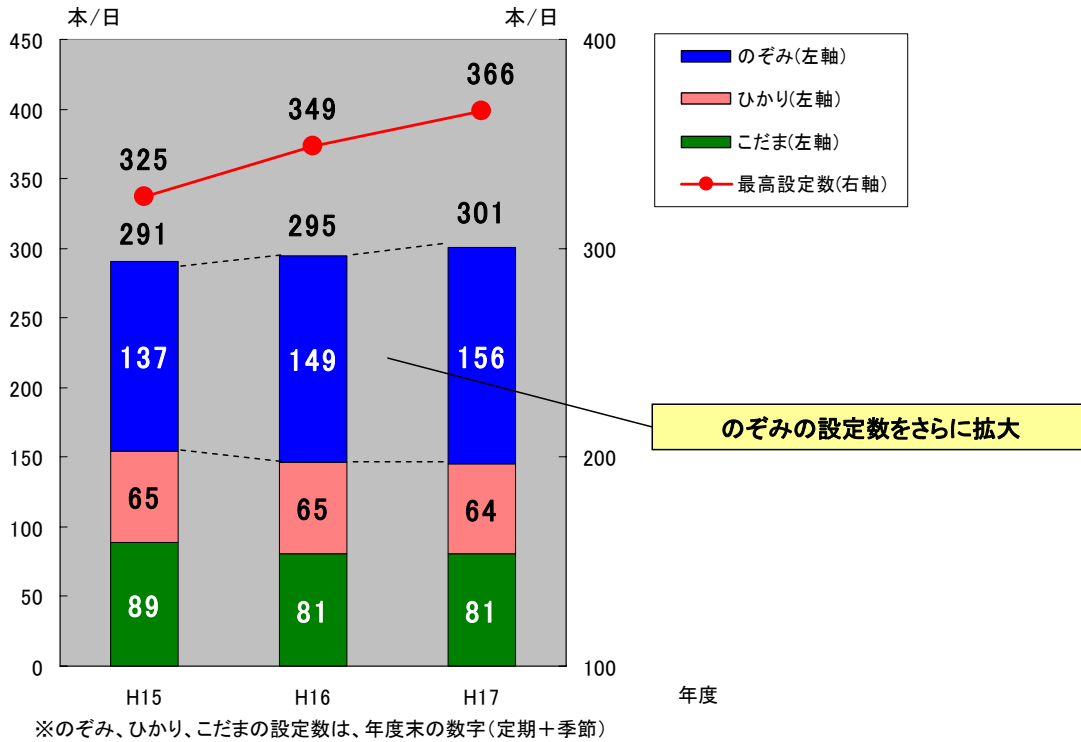
◆山陽区間への直通列車のご利用状況も引き続き好調に推移

京浜～山陽区間: 対前年比109%

※平成17年度下期の実績(今回特別集計した数字)

東海道新幹線の輸送力増強

◆平成18年3月に導入した東海道・山陽新幹線を直通する「のぞみ」の利便性を一層高めたダイヤをベースに、引き続きご利用の集中する時期・時間帯を中心に臨時列車を弾力的に増発



当面の施策

	～H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度～
航空の動向	<ul style="list-style-type: none"> ◆H18.2 神戸空港開港 ◆H18.3 新北九州空港開港 		<ul style="list-style-type: none"> ◆H19年 関空2期供用開始 		<ul style="list-style-type: none"> ◆H21年 羽田空港発着枠拡大
輸送・サービス関連	<ul style="list-style-type: none"> ◆H17.3 のぞみ8本ダイヤ導入 ◆H17.12 EX予約新神戸延伸 ◆H17.12 EX予約グリーンプログラム導入 ◆H18.3 新ATC使用開始 	<ul style="list-style-type: none"> ◆H18.3 直通のぞみの利便性を一層高めるダイヤ導入 ◆H18夏 EX予約山陽拡大 ◆H18年秋 名古屋地区在来線ICサービス開始 	<ul style="list-style-type: none"> ◆H19年 N700系営業運転開始 ◆H19年度 EX予約ICサービス開始 ◆H19年度 静岡地区在来線ICサービス開始 	<ul style="list-style-type: none"> ◆N700系の集中投入 ◆N700系を他輸送機関に対し圧倒的に優位にする最適ダイヤの策定 	<ul style="list-style-type: none"> ◆未定 新大阪駅改良完了
当社の施策 地震対策関連	<ul style="list-style-type: none"> ◆H17.8 テラス供用開始 		<ul style="list-style-type: none"> ◆H19.9 地震防災システム機能改良 	<ul style="list-style-type: none"> ◆H20年度末 新幹線高架橋柱耐震補強(せん断破壊先行型対策)概ね完了(合計17,600本) ◆H20年度末 新幹線高架橋柱耐震補強(東海地震想定地震波形対策)完了(合計2,000本) ◆H20年度末 新幹線盛土耐震補強完了(合計6.5km) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆H21年度 鉄筋コンクリート橋脚耐震補強完了(合計1,150基)
駅リニューアル関連	<ul style="list-style-type: none"> ◆H17.3 名古屋駅(出札等) ◆H17.3 新大阪駅 ◆H18.3 岐阜羽島駅 	<ul style="list-style-type: none"> ◆H19春 京都駅 	<ul style="list-style-type: none"> ◆H19夏 静岡駅 ◆H19秋 浜松駅 ◆H20春 三島駅 	<ul style="list-style-type: none"> ◆H20年 新横浜駅 ◆H21春 名古屋駅(コンコース等) ◆H20年度末 米原駅 	<ul style="list-style-type: none"> ◆H24年春 東京駅

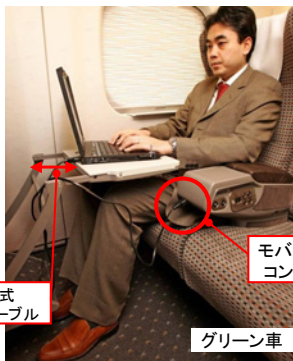
今後の競争力強化(N700系の投入)

①ハード面

- ◆最高速度： 東海道区間270km/h、山陽区間300km/h
(半径2,500mの曲線通過速度が270km/hに)
- ◆省エネルギー化： 電力消費量は700系に比べ、20%弱削減

②ソフト面

- ◆利便性向上： 背面テーブル大型化、電源コンセント大幅増設により、パソコン利用の利便性向上(高速走行中も使用可能な「インターネット環境」充実も目指す)
- ◆快適性向上： 全座席禁煙化、喫煙ルーム設置(6箇所)
- ◆乗り心地向上： セミアクティブ制振制御装置搭載、新型シート採用等

スライド式
背面テーブルモバイル用
コンセント

グリーン車

N700系シート



全周ホロ

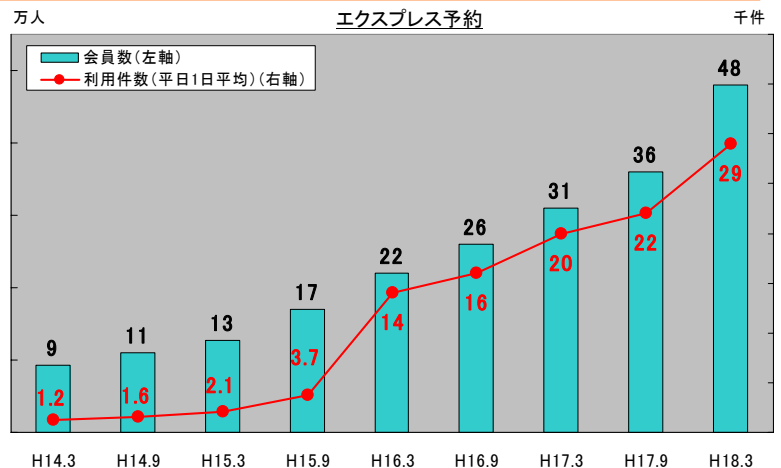


喫煙ルーム

今後の競争力強化(営業施策)

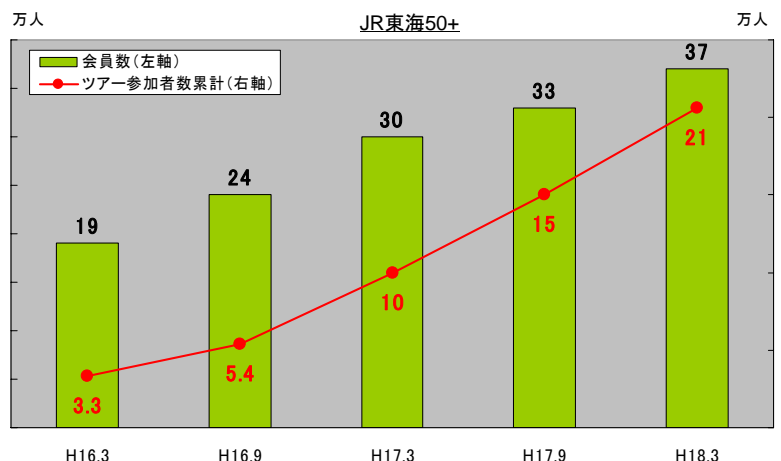
①エクスプレス予約

- ◆今夏までに東海道・山陽新幹線全駅で利用可能に
- ◆今夏までにJ-WESTカードでの取扱開始
- ◆エクスプレス予約ICサービス
・平成19年度:導入(予定)



②JR東海50+

- ◆京都をはじめとして、奈良、伊勢、大阪、神戸、九州商品の充実を図る



(億円)

	H18年度(計画)	主な要因(対前年度増加)
安全・安定輸送の確保	1,000	地震対策216(+116)、在来線車両安全装置整備15(+15)
N700系の投入準備及び東海道新幹線の輸送基盤強化の推進	480	N700系投入諸準備200(+187)、主要駅リニューアル170(+80)
営業施策の積極的展開	100	エクスプレス予約ICサービス58(+58)
在来線の線区やエリアの特性に応じた諸施策の推進	300	車両204両新製250(+250)
鉄道技術開発の推進と地球環境保全の取り組み	50	
超電導リニア技術開発の推進	30	超電導磁石総合試験装置21(+21)
駅設備等の整備	80	
事業展開の推進等	10	
名古屋セントラル病院の開院	40	
単体計	2,300	※H17年度(計画)1,480
連結子会社設備投資(単純合算)	310	※H17年度(計画)260
連結計	2,610	※H17年度(計画)1,740

関連事業

7

①JR東海新横浜駅ビル(仮称)計画

- ◆総事業費:約400億円(駅改良含む)
- ◆延床面積:約90千 m^2 (商業施設約34千 m^2 、オフィス約16千 m^2 、ホテル約11千 m^2 (約200室))
- ◆平成20年:開業(予定)



NAGOYA CENTRALGARDEN(イメージ)

②NAGOYA CENTRALGARDEN

- ◆敷地面積:約38千 m^2 (分譲マンション約11千 m^2 (226戸完売)、商業施設約14千 m^2 他)
- ◆平成19年春:開業(予定)



東区明倫町(名古屋)社宅跡地開発開発(イメージ)

③東区明倫町(名古屋)社宅跡地開発

- ◆敷地面積:約27千 m^2 (分譲マンション約12千 m^2 、(約260戸)、商業施設約12千 m^2 、宅地分譲約3千 m^2)
- ◆平成19年春:商業施設開業(予定)
- ◆平成20年春:分譲マンション引渡開始(予定)、宅地分譲開始(予定)

自己株式の取得

①概要

- ◆取得日:平成18年4月5日
- ◆取得株式数:268,686株(発行済株式総数の約12%)
- ◆取得単価:115万円
- ◆取得総額:3,089億円

※資金調達は、自己資金(約1,500億円)及び短期借入(1,600億円)による

②取得目的

- ◆機動的な資本政策の遂行を可能とするため
- ※具体的な活用方法については、今後検討

山梨リニア実験線

一般区間



		山梨実験線(先行区間) Yamanashi Maglev Test Line(Priority section)
総延長	Length	18.4km
トンネル区間	Tunnel	16.0km
明かり区間	Open section	2.4km
単線/複線	Track	複線 Double Track
最急勾配	Maximum grade	40‰
最小曲線半径	Minimum curve radius	8,000m